

目標達成計画

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束についての認識はしており、ベッドからの転落・転倒の危険性がある利用者に対して、現在ベッド柵の使用は行っていないが、危険回避の意識が優先とならないようにしたい。	身体拘束・高齢者虐待に関する知識を深めるとともに代替ケアの検証を行う。	身体拘束・高齢者虐待に関する研修会を実施、外部研修にも参加し意識を高める。「身体拘束をしないケアの実践」の検証を定期的に行い支援体制を強化する。	6ヶ月
2	36	トイレ誘導時、要介護度が高い利用者に対してプライバシーに配慮する必要がある。面会にばらつきが見られるのは家族の事情もあり仕方のないことであるが、会えない利用者が寂しい思いを感じさせないような配慮が必要。	プライバシーには些細なことでも重みがあることを痛感している。プライバシー確保の理解度を、より一層深める。	事業の方向性の一つであることを常に念頭に置き、自分自身の態度を見直す。親しみやすさと慣れ慣れしさを履き違えないようにし利用者の尊厳を損なわないように支援にあたる。会いたい気持ちの強い利用者に対する配慮と面会への協力依頼を行う。	3ヶ月
3	24	入居後、利用者や家族から知り得た情報を全職員に伝達できているか、またその継続性に不安がある。	利用者それぞれの歴史、趣味、感情などを把握し、全職員が共有してケアに活かす。	入居者が退去時に使用しているセンター方式のシートに記載し、職員間で情報が共有できるようにする。いつでも情報が記入出来るように現場で保管する。	6ヶ月
4	24	個人記録の内容の充実	誰が見てもわかりやすいその人らしい生活の様子が伺える記録にする。	一人ひとりの入居者の生活場面の的確に捉え、表情や発言、表現等を一瞬でも記録に残すように努め実践に活かせるようにする。	6ヶ月
5					ヶ月